

「おなら」の話

看護学部 講師 新沼 剛 (2013.10.1)

図書館と聞くと、私は小学校の図書館にあった絵本のことを思い出す。確か『へっこきどっこいよめにきて』という名前だったと思うのだが、まだ小学生だったため、「へっこきどっこいだってよー」と同級生とはしゃいだ記憶がある。どんな内容だったのか忘れたので、アマゾンで同名の絵本を検索してみたものの、ヒットしなかった。しかし、類似本として、『へっこきあねさがよめにきて』、『へっこきよめどん』、『へっこきよめさん』という絵本があり、おそらくこれらのどれかを読んだのだろう。

これらの絵本には共通点がある。それは表紙である。表紙には着物を着た若い女の子が描かれているのだが、その女の子がお尻を突き出して「おなら」をしているのだ。そしてその「おなら」もわざわざ黄色で描かれている。何と愛らしい・・・！

絵本ということもあり、表紙もそうだが、文章表現も非常にインパクトがある。主人公がおならをすると、「どっかーん」とか「ぼんぼん、ぼがーん」と擬音語が使用されているのだ。そしてこのおなら、人を吹き飛ばすほどの威力があるらしい。

何とも愉快な話ではあるが、絵本には子供の成長・発達を促すうえで、大きな効果があるといわれている。私も保育園児だったころ、園内にあった『はらぺこあおむし』を読んで、「何故、絵本に穴が開いているのか?」と子供心に疑問に感じた記憶がある。この『へっこき』シリーズは、子供が好きな「おなら」を題材にしているので、子供の関心を惹きながら、言語と物語の楽しみ方を習得することができるのではないだろうか。

いろいろ検索しているうちに、この『へっこき』シリーズをまた読んでみたくなった。将来、子供ができれば、読み聞かせてあげたい。本学の図書館には所蔵されていないようだが、是非、皆さんにも書店で手に取って頂きたい。くれぐれもあまりの面白さに吹き出して、周囲から怪しまれないように御注意を！

【類似本として紹介された本】

『へっこきあねさがよめにきて』(おはなし名作絵本 17) 大川悦生文 太田大八絵
ポプラ社 1972.11

『へっこきよめどん』(日本名作おはなし絵本) 富安陽子文 長谷川義史絵
小学館 2009.4

『へっこきよめさん』(子どもとよむ日本の昔ばなし) おざわとしお文
からさわかおり文 はなのうちまさよし絵 くもん出版 2005.10

* このほかにも多数出版されています。

現在当館に所蔵はありませんので、最寄りの公共図書館等をご利用下さい。